

生き物いっぱい捕れた



捕獲した川の生き物をトレイに並べ、高校生の説明を聞く参加者たち。丹波篠山市瀬利で（提供）

畑地区で親子ら「じゃことり」

丹波篠山市畑地区の畑川（新瀬利大橋北側）で「じゃことり」の生き物の観察

2024年8月11日
丹波新聞

会（みたけの里づくり協議会主催）が行われた。同市内外から小学生など親子43人が参加。篠山東雲高校自然科学部の部員7人が先生役を務め、捕獲した魚の名前や特徴などを解説した。

子どもたちに身近な自然に親しみを持ってもらおうと続けている事業。参加した子どもたちは

それぞれ網を手に川へ入り、石の下や草の陰などをさがさんと探った。結果、イモリ、ミスカマキリ、ドンコ、ヨシノボリ

など約20種の生き物を捕獲。トレイに分けて入れ、同部員たちが子ども

たちに分かりやすく、工夫しながら解説した。

普段も父親と西紀の川へよく遊びに行くというさん（味噌小4

年）は、「ハヤとか、エビとか、カニとか、捕れ過ぎるほど捕れた。川は海より楽しい」と笑顔で話していた。

説明役を務めた同部のさん（2年）は、「川にいた生き物について豆知識も入れて楽しみなから知ってもらおう

ことと、アメリカザリガニなどの外来生物がなぜここにいてはいけないかを伝えたい」と言

い、さん（3年）は、「低学年の子にも分かりやすいように目線を合わせるなど、伝え方にこだわった」と話していた。